

みなみの風



2019
令和
元年
6月



健康や環境保全にもつながる素晴らしき道具“自転車” 6月6日(木)



あるアンケート調査によると、現代の親世代の人々に「自転車に乗れるようになった年齢は？」との問いで、回答された平均年齢は「5.7歳」。「(自分の)子どもが自転車に乗れるようになった年齢は？」の問いでは、平均「4.9歳」という回答結果になったそうです。平均年齢が下がってきている要因の分析として、「子ども用二輪遊具の普及」「小インチ自転車の充実」「サドル高の調整幅拡大」などが挙げられるようです。また「小学校入学までに自転車に乗れるように！」と考えている人が多いという分析結果もあり、一概には言えませんが、小学生の時代は、正に「自転車初心～初級者」と言えるのかもしれません。

開成町では毎年、小学校4年生を対象に自転車講習会を実施し、小学生の自転車運転へのマナーや安全意識、運転技術の向上等を目指しています。本校では、6月6日(木)の午後に行われ、乗り方の模範披露、実技演習、筆記試験等を実施しました。7月6日(土)には、第50回交通安全子ども自転車神奈川県大会に本校6年生チームが出場します。

開成町には半世紀も前から、小田原市の富士道橋と南足柄市の大口広場を結ぶ「酒匂川サイクリングコース」が通っており、自動車とオートバイは乗り入れ禁止のため安全性は高く、日常でもなじみ深い道路でもあります。近年は、時代の流れや社会の変化とともにランナーの姿も多く見受けられ、サイクリストとの共存は課題の一つなのでしょうが、元々はサイクリングを通じて自然に親しみながら体力の増進を図る目的で設置されたものです。そのコースの中間拠点として、また、町内は平坦地が多く自転車での移動がたいへん便利なものであるという認識もあります。

自転車とは縁の深い町に暮らし、自転車を愛すべき町民として、いつの時代も児童一人ひとりが交通安全への興味や関心を高くもち、自転車の安全な乗り方の知識や技能を身に付け、TPOに合わせて使い分け、常に交通事故防止の意識や備えを高めていってほしいと期待しています。



学校参観、お弁当、引渡し訓練、ありがとうございました！



6月15日(土)



6/15(土)に開催された学校公開日には、保護者や地域の方々、卒業生のOB・OGなど多くの来校を賜りました。梅雨を実感する一日でしたが、小学校での学習や生活の様子をご覧いただけだと思います。

また南海トラフ地震に関連する情報が出た場合等をはじめとする、家庭への引渡し訓練を実際に実施しました。悪天候の中、訓練への御理解と御協力もありがとうございました。

「6月」は農林水産省の食育月間でもあり、今年度の本校では、この日を“お弁当”の日に設定し、“食”への意識を皆で高めました。食育ではまず、“『食』に関する知識”と“『食』を選択する力”が求められます。子どもたちは、幼少期からの御家庭の指導により、“食の大切さ”や“食のバランス”といったものを、なんとなくは身に付けています。このような機会に、それらを結集し考えを深め合い、毎日欠かせない「食べる」活動を軸に、思いを巡らせました。

児童は、家族の方々や御家庭の“愛情”を、たくさん感じ取れる一日になったと思います。



9/21の運動会へ向け始動！「サイサイ節」から始めました 6月4日(火)

この日の朝の児童集会は、9/21(土)に予定されている運動会に向けて、当日の昼休みに実施している、恒例の「サイサイ節」の練習を行いました。体育委員会が中心となり、ステージ上や全児童の前で、模範舞踊を披露したり基本的な4つの振り付けパターンを伝授したりしました。

「まだまだ先……」と感じる運動会も、梅雨が明け、夏休みが過ぎればすぐに到来となります。本番はたった一日ですが、学習活動として準備や練習などにも計画的に時間をかけて築き上げ、運動会当日へ臨みます。

開成町内でお馴染みの「サイサイ節」は、文字通り“平成初期”に作られ、町内各地で親しまれ続け、もう三十年余の歴史があるそうです。作曲者は、“昭和世代”なら誰もが知っている「エレキの神様」と称される日本を代表するギタリストです。

新時代最初の運動会が予定通り実施できるよう、今から好天祈願もしていきたいです。



泳げても そうでなくても 楽しい水泳学習が始まります 6月13日(木)

5/28(火)に6年生を中心に行ったプール清掃を皮切りに、水張りや濾過等の機械の作動点検、水質検査等の綿密な準備やチェックを経て、梅雨の盛りの中、晴れ間に恵まれた6月13日(木)、これから1カ月にわたって使うプール開きを行いました。

水が張ってあってもまだ使用していないプール水温はまだ低めでしたが、これからの季節に爽快感や元気をたくさん与えてくれる水泳学習の時節が訪れました。



水の事故は命に関わることに繋がるので、皆が安全に配慮して取り組むことは大前提ですが、水泳は、心臓や筋力の強化、精神の浄化やストレス解消などにも効果的という研究結果があるそうです。

プールの活動を楽しみましょう！！

小学校体育“水泳系”の領域



1・2学年「水遊び」

- 水になれる 水につかったり移動したりする
- 水に浮いたりもぐったり、水中で息を吐いたりする

3・4学年「浮く・泳ぐ運動」

- いろいろな浮き方 け伸び
- 補助具でのキック、ストローク
- 呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ

5・6学年「水泳」

- クロール、平泳ぎで続けて長く泳ぐ



季節のたより

開成南小学校のグラウンドの一部には天然芝が植えられており、これからの時期、学習活動や運動会をはじめ、青々とした風景も我々の目を楽しませてくれます。もちろんその陰には、様々な方々の甚大な御理解や御協力があって、管理が続けられています。うれしいことに、芝の専門家にかがったところ、「開成南小学校グラウンドの芝生の定着状況は、現在のところマル！」で、コンディションは上々とのことです。

陸上競技場中央の芝を囲むトラックと言えは赤が定番でしたが、最近は青い舗装材を使用したところが増えているそうです。「赤に比べて青は鎮静効果があり、リラックス効果と集中力向上が期待でき、好記録に繋がりがやすい。」という期待があるようです。

天然芝を使用している日本の野球場では、今も昔も“外野のみ芝生(=内野は土)”が一般的なのですが、元々は、サッカーやラグビー、フットボール同様、“全面芝生”が基本だったようです。しかし、日本の独特な気象条件や芝の養生具合、使用頻度や再生の状況から“全面芝生”は残念ながら普及せず、“外野のみ芝生”が一般化していったようです。

芝より管理しやすい土を重用し、“内野は土”が日本の野球場の文化・伝統になっていますが、梅雨明けとともに地区予選が始まり、夏の高校野球の頂点の大舞台である阪神甲子園球場では、質感のみならず土の色にまでこだわり、もは芝の緑と土の黒のコントラストがインスタ映えするような配分美を追求しているのではないかと噂話もあるそうです。

プレーによって顔や腕、野球用ユニフォームに土が付着した姿や、選手が泥を振り落とす仕草も、選手たちの貴録を増しますね。(担当)

